



林業の現場は、力仕事が多く男性社会と思われがちですが、苗木を植えて・育てる・伐って使うという過程の中で、性別に関係なく全ての業務が行える職種だと考えています。また、森林管理の業務ではICT化も進んできており、理系女性の活躍も期待されます。そのために職場での意識改革や環境整備が重要となってきたことから、これからも女性の働きやすい職場づくりを目指します。

北海道森林組合連合会 代表理事会長 有末 道弘

森林組合は地域の森林保全を通じて、水源の環境保全、がけ崩れなどの山地崩壊の防止、二酸化炭素の吸収などゼロカーボンに資する機能の維持など、SDGsにも合致する活動を主業務としています。

これらの活動を継続して行っていくためには、女性の視点が欠かせません。

北海道には78の森林組合があり、各地域において森林保全や再生可能な資源である木材生産を通じて循環型社会の実現に向けた活動を展開していく中で、「JForest+ビジョン」として2030年の理想を掲げて活動を始めました。

北海道森林組合連合会では、その目指す姿の中で、男女問わず育児・介護休業が取得できる環境づくり、女性管理職登用にも取り組み、性別問わずキャリアアップできる組織として活動していきます。

北海道森林組合連合会について

北海道森林組合連合会（略：道森連）は、1942年2月に設立され今年で80年の歴史を刻んできました。

当会は、一般民有林を管理する全道78森林組合を会員として会員への指導と経済の両事業の補完的役割を有する総合型連合会です。

地域経済の振興発展、民有林に関する諸問題解決に向け、活動を続けています。